UISION2035

エネルギーから未来を拓く ~九州とともに、そして世界へ~

九電グループは、"ずっと先まで、明るくしたい。"という思いのもと、持続可能な社会への貢献と九電グループの更なる進化を目指し、グループー体で取り組んできました。

近年、私たちを取り巻く環境は大きく変化しています。このような中においても、九電グループが事業活動を通じて 九州とともに更なる成長を目指すため、「九電グループ経営 ビジョン2035 | を策定しました。

このビジョンでは、九電グループが中長期的に社会で提供したい価値を改めて描き、その過程として2035年における"ありたい姿"を明確化。その実現に向けた経営目標やグループ重点戦略を策定しました。

グループの力を結集し、"エネルギーから未来を拓く"ことを目指して、九州から日本、そして世界を舞台に更なる高みに進みます。





指標		2030年度	2035年度
I.財務目標	連結ROIC	3.3 %	4%程度
	連結経常利益	1,800 _{億円}	2,000億円以上
Ⅱ.環境目標	サプライチェーンGHG排出原単位	0.36 kg-CO₂ / kWh(2013年度比▲50%)	0.29 kg-CO₂/kWh(2013年度比▲60%)
	九州の電化率	家庭部門: 70%/業務部門: 60%	家庭部門: 75 %/業務部門: 65 %
Ⅲ.人材目標	従業員エンゲージメントレーティング*1	AA	AA
	一人当たり付加価値* ²	1.5 倍	2 _倍

^{※1 (}株)リンクアンドモチベーションが提供するエンゲージメントサーベイにおけるレーティング

^{※2 2021}年度比。売上高から外部購入価値(燃料費や委託費等)及び減価償却費を差し引いたもの(経常利益+人件費+賃借料+租税公課等+金融費用)

「経営ビジョン2035 | 策定の背景

九電グループを取り巻く環境は、カーボンニュートラルの 進展やエネルギーニーズの変化、地政学的リスクの顕在 化、急速な技術革新等、かつてないスピードで変化していま す。これらの環境変化は、私たちに新たな機会をもたらす一 方で、従来の延長線上では対応することのできない課題も 突きつけています。

そこで私たちは今回ビジョン策定にあたり、現在の事業環境から2035年時点の環境変化を予測する"フォアキャスト"の視点と、2050年という長期的な事業環境の変化から逆算し、2035年時点で必要なものを見通す"バックキャスト"の視点から検討を行いました。

また、策定にあたっては、経営層のみならず若年層や管理職層等の多層的な視点を取り入れ、グループー丸となってビジョンを作り上げました。

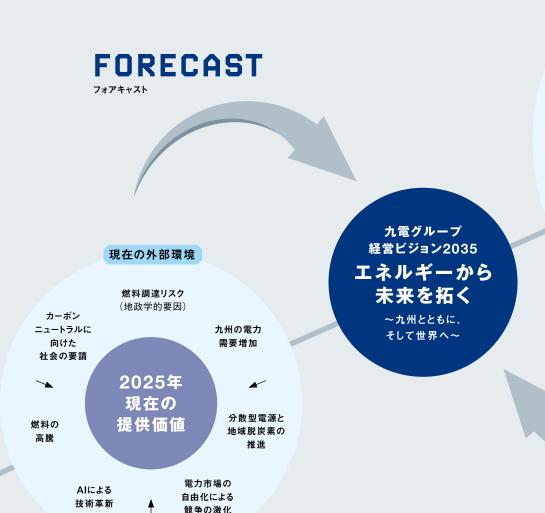
2025年現在の提供価値

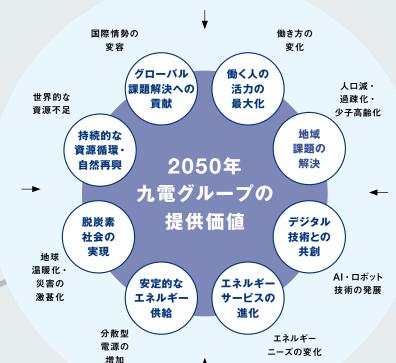
2019年に策定した「九電グループ経営ビジョン2030」のもと、「エネルギーサービス事業の進化」「持続可能なコミュニティの共創」「経営基盤の強化」をありたい姿実現に向けた戦略として取組みを推進。原子力4基の安定稼働や成長事業の拡大等、着実に各施策を進めてきました。また、カーボンニュートラルや社会のデジタル化に伴う対応等、価値提供の幅も広がっています。

2050年九電グループの提供価値

今後は人口減・過疎化や世界的な資源不足、地球温暖化への対応等、より長期的な視点が求められます。

この観点から、九電グループが果たす役割は、単なる電力供給に とどまるべきではないと考えています。再エネの主力電源化や地域 課題の解決、デジタル社会への対応等を通じて、変化の激しい時 代においても、社会の持続的な発展に貢献する存在を目指します。 フォアキャストとバックキャストの 2つの視点から2035年に目指す姿を描く





想定される外部環境

BACKCAST

バックキャスト